

報告

Moodle を活用した授業実践と学習活動の分析

生田和重

徳島文理大学 一般総合科目

要約：これまでの指導経験をもとに学習支援 Moodle サイトを構築し、2013 年度前期の担当授業で活用した。さらに、その学習管理システムに蓄積された活動履歴を分析し、今回の試みにより授業を活性化できたかどうかを検討した。学生達は Moodle サイトに登録された教材、学生主導の活動、課題へのフィードバックなどを有効活用して学習に励んだ。その活動を分析したところ、課題のアップロード、それに対する評価やフィードバックの表示という Moodle の機能に、学生達は好印象を持ったことが分かった。また、フォーラムへの投稿を参照しつつ議論することにより、オープンな雰囲気を作り出すことができたようである。ただ、授業時間外で学習支援 Moodle サイトを活用する頻度は思った以上に少なかった。今後は、自主学習の習慣を身につけてもらえるような新たなコースを開発していきたい。

(キーワード：高等教育, 学習管理システム, Moodle, 学習支援, 活動分析)

Classroom Activities Using Moodle and Task Analysis

Kazushige IKUTA

Liberal Arts, Tokushima Bunri University

Abstract: A learning support website was constructed using Moodle and was used in my classroom in the first semester of fiscal year 2013, and whether to make the classroom interaction active or not was deliberated by analyzing the task logs kept in the learning management system. My students experienced positive learning by taking full advantage of course materials of my classes, student-based and cooperative activities, and feedback comments and grades on assignments provided on the Moodle website. According to the results of task analysis and questionnaire, it is obvious that my students had a good impression of the learning support system using Moodle which provided them with interactive course materials such as uploading assignment files, and viewing grades and feedback. Moreover, my students had an atmosphere in which relevant things could be discussed openly among themselves by referring to discussion topics in the Moodle forum. However, it will be necessary to have a student cultivate a habit of the voluntary learning as soon as possible. As a tentative measure, I want to establish some voluntary learning courses on the Moodle website.

(Key words: higher education, learning management system, moodle, learning support, task analysis)

1. はじめに

2012 年夏にまとめられた中央教育審議会の答申¹⁾では、学士課程教育の質的転換を図るために、ディスカッションやディベートといった双方向の授業が求められている。また、学生自身が主体的な学修体験を積み重ねることにより、生涯を通して学び考え続ける力を養うことができると提言されている。教育者は、この指針を真摯に受け入れ、旧態依然な座学ではなく、アクティブラーニングの機会を学生たちに提供する必要がある。

このような問題意識のもと、大学における数々の教育改善の試みが報告されている。鈴木²⁾は、それらの改善策を教育設計学 (Instructional Design, 以下 ID) の視点で整理している。学力や興味の差を能力の差と捉えるのではなく、「学習に必要な時間の差」と捉える。できるだけシンプルな仕組み

で学習者を活動的にする。講義を聴かすより実際に作業をさせる。さらに、作業中の失敗を振り返る機会を設ける。これらの ID の知見を大学教育の抜本的な変革で活かすことを提案している。

最近では、ID の知見を実現し授業の活性化を図るための一つの道具として、オープンソースの学習管理システム (LMS, Learning Management System) である Moodle が積極的に活用されている。たとえば Miyazoe and Anderson³⁾ は、ある EFL

(English as a Foreign Language) クラスに対する英文ライティングの学習環境を Moodle で構築した。その学習環境では、フォーラムをディスカッションの場として、ブログを反省の場として、翻訳演習を集団活動の場として、それぞれ有効に活用する。これら三つの場に投稿された英文やインタビュー結果を分析して、学生の自主性や英文ライテ

イング力の向上を確認している。

このような動きに刺激されて、担当授業での学習を支援する Moodle サイトを構築した。このサイトに含まれるコースは、これまでの指導経験をもとに学生主導の学びを提供することを目標に作成されている。以下では、そのコースの具体的な内容や狙いを説明し、それを活用した授業実践の状況を述べる。さらに、学習活動を分析することにより、授業の活性化や自主学習の促進の可能性を探る。

2. 学習支援 Moodle サイトの構築

使用したコンピュータの仕様を表 1 に示す。少人数教育で活用することと OS として軽快に動く Linux を導入することとを勘案して、一昔前のコンピュータを有効活用した。ただし、メモリは 3GB に増設した。一般に、Moodle に同時アクセスできる人数の目安は、メモリ 1GB で 50 名程度であるので (Rice⁴⁾)、3GB を搭載しておけば十分な処理能力を確保できるだろうと予測した。

表 1 使用したコンピュータの仕様

項目	仕様
CPU	Celeron/1.86GHz
メモリ	3 GB
HDD	130GB
OS	Linux , Ubuntu12.04.1.LTS (Ubuntu10.10 ⁵⁾ からアップグレード)

このコンピュータに、表 2 に示すソフトウェアをインストールした。その際には、関連ホームページ (たとえば karakaram.com⁶⁾、てもぐ⁷⁾) を参考にした。

表 2 インストールしたソフトウェアとその役割

ソフトウェア	役割
Apache 2.2.22	Webサーバー
php 5.3.10	Webプログラミング
MySQL 5.5.24	データベース管理
Moodle 2.3	学習管理

この環境上に、学習支援 Moodle サイトを構築した。その際には、関連書籍 (たとえば宮添ほか⁸⁾、Rice⁴⁾) を参考にした。なお、このサイトへは、

学内のみからアクセスできる。学外から教材をダウンロードするには、これまで通りに学習支援ホームページ (図 1 参照) を活用してもらう。

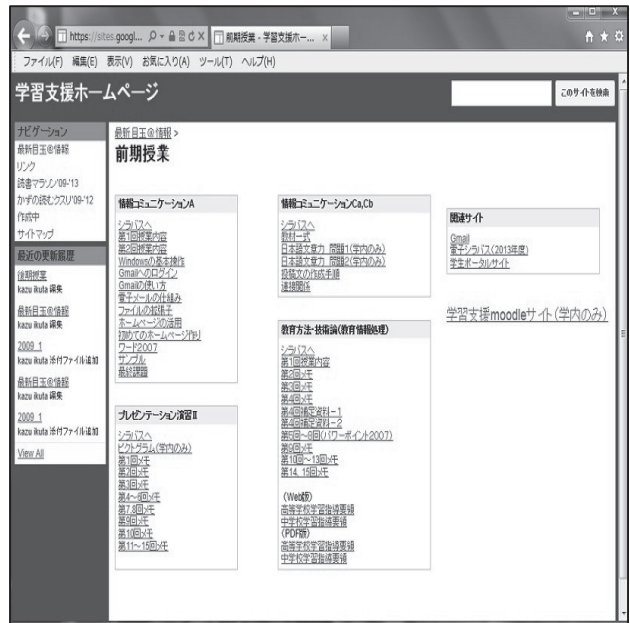


図 1 学習支援ホームページ

(https://sites.google.com/site/bunricai2009/)

学習支援 Moodle サイトの活用手順は以下の通りである。まず、学習用のコンピュータから学習支援 Moodle サイトのログイン画面にアクセスする。サイトの管理者により予め登録されたユーザー名とパスワードを入力して、ログインボタンをクリックすると、マイコース画面 (図 2) が表示される。今回は、筆者の担当科目から Moodle の



図 2 マイコース画面

機能を活用できそうな 4 科目を選定し、その教材や活動を登録した。「教育方法・技術論」は教職必修科目であり、その対象は主に文学部と理工学部の 3 年生である。また、「情報コミュニケーション Ca_Cb」と「情報コミュニケーション A」は文学部共通科目であり、前者は 2 年生を、後者は 1 年生を対象としている。「図書館情報技術論」は司書資格の必修科目であり、文学部の 2 年生を対象に開講されている。なお、先の 3 科目は前期に、「図書館情報技術論」のみ後期に開講される。

たとえば、マイコース画面の「情報コミュニケーション Ca_Cb」をクリックすると、そのコース内容 (図 3) 表示される。先生からの連絡を登録した「お知らせ」の後に、15 回分の教材や課題などがシラバスに従って順に配置されている。第 1 回の「作文の提出」は、受講生の日本語文章力を判定するための課題である。図 3 には表示されていないが、他の課題として「日本語文章に関する問題」、「新聞投稿文の作成」、そして「マインドマップを活用した報告書の作成」が登録されている。また、第 3 回の「教材一式」をクリックすると、関連する教材 (pdf ファイル) が表示される。さらに、第 3 回の「5 型式探し」や第 4 回の「言葉の定義付け」はフォーラムであり、授業中の議論

で活用される。これらの詳細については、以下の第 3 章で活動状況を交えて説明する。

3. 授業実践

前章で紹介した学習支援 Moodle サイトを活用して、2013 年度前期の授業を行なった。本章では、Moodle の機能を活用した主な学習活動について、文学部に所属する 54 名の学生が受講した「情報コミュニケーション Ca_Cb」を例にとって説明する。なお、「Ca_Cb」という表記は 2 クラスに分けて同じ内容の授業を行なったことを示しており、その受講者数は各々 30 名と 24 名であった。各学生は、36 台の Windows PC を有する学習室から学内 LAN を介して今回構築したサーバーに接続した。

3.1. 教材の提示と活用

本サイト上には、各授業に対応した教材が登録されている。その一例として、「情報コミュニケーション Ca_Cb」の教材のスクリーンショットを図 4 に示す。このような教材をワープロソフトや表計算ソフトで作成すると、使用するコンピュータのアプリケーションソフトやフォントによっては表示が乱れることがある。乱れた表示を無理して見ることによりストレスを感じては、教材を提示する意味が無い。そこで、可能な限り教材ファイ



図 3 コース内容

ルを pdf 形式に加工することにより、不具合を防いでいる。先生は、この教材をスクリーン上に映写して、それを参照してもらいながら授業を進めることができる。また学生は、スクリーンやコンピュータのモニタ上に表示された教材を視覚的に確認することにより理解を深めることができる。さらに、教材ファイルを USB メモリにダウンロードして、授業外での予習や復習で活用しても良い。

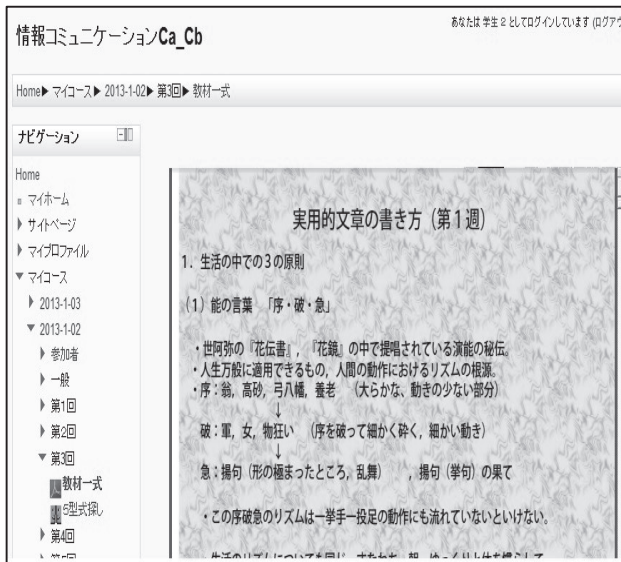


図 4 教材の提示

3. 2. 課題の提出と評価

初回の授業で、「将来の目標」というテーマを設定して、500 字程度の文章を作成してもらっている。学生は、ワープロソフトで文章を作成し、学習支援 Moodle サイトを活用して文書ファイルを提出する。図 3 の第 1 回「作文の提出」をクリック

クし、課題ファイルをアップロードした場面を図 5 に示す。その後、「変更を保存する」ボタンをクリックすると課題の提出は完了し、評価を受けるためにファイルが提出された旨が表示される (図 5 太枠内)。また、確かに課題が提出されたことを知らせるメールが提出者の学内メールアドレス宛に自動送信される。

筆者は、この作文を通して受講生の日本語文章力や語彙力を把握し、それ以降の指導で活かしている。また受講生は、作文に対する評点やフィードバック (図 6) を確認し、筆者のコメントを参考に文章を練り直す。この作業を通して、本科目で学ぶべきことを感知してほしいと願っている。



図 6 課題の評価

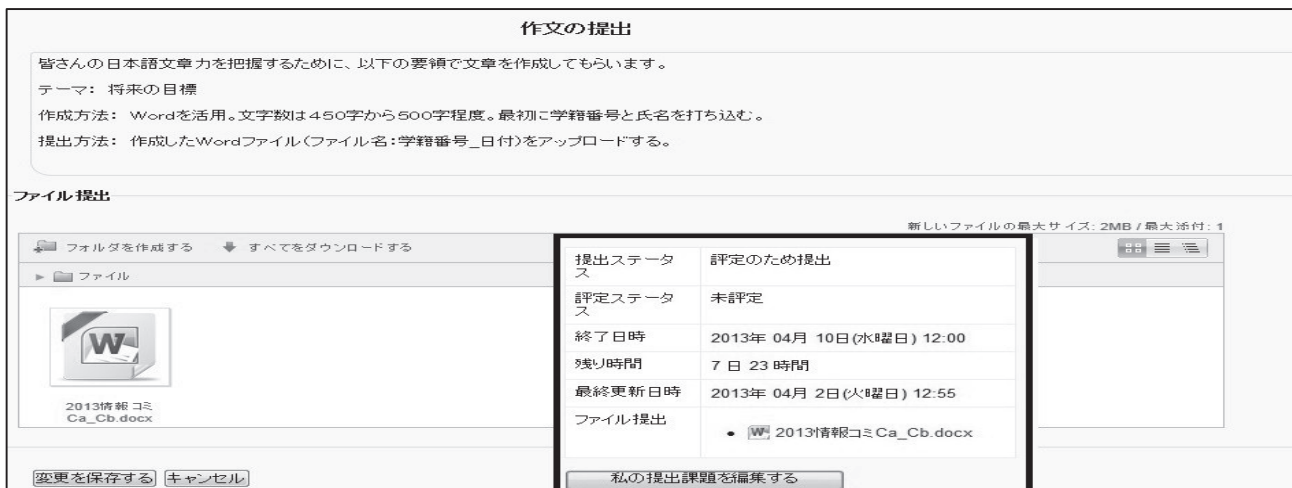


図 5 課題の提出

この後、受講生は日本語文章に関する問題に挑戦したり、新聞投稿文を作成したりして⁹⁾、実用文の書き方の基本を身につける。その際には、前述の要領で課題ファイルを提出し、フィードバックを参考にして日本語文章力を磨く。最終課題として、マインドマップ¹⁰⁾を活用して、各自のキャリアプランとそれを実現する方法を文章にまとめる。受講生は、この課題を通して自身の文章力の向上度を確認できる。さらに、間近に迫った就職活動の事前準備を行なうこともできる。

図 7 に、ある受講生が作成したキャリアプランのマインドマップを示す。これは、3 年後、5 年後、10 年後の状況を想像し、そのキーワードまたはキーワードを樹形図にまとめたものである。このようなマインドマップを予め作っておけば、筋の通った文章を作成できるであろう。その後、受講生は各々のペースで、キャリアプラン、それを実現する具体的な方法、受講した感想を文章にまとめる。なお、この受講生が作成した報告書は、「マインドマップにまとめることによって、今やるべきことが明確になった。これから、3 年後の私になるために、今しかできないことをきちんとしていきたい。そして、わからなくなった時や迷ったときは、マインドマップを見直すつもりだ」と締め括られていた。なお、本科目では課題の出来具合や学習状況を総合して評価しているので、学期末の筆記試験は実施していない。

3.3. フォーラムへの投稿とその活用

Moodle のフォーラム機能を活用してディスカッションを行なった。図 3 の第 4 回「言葉の定義付け」を例にして、その内容を説明する。図 8 はフォーラムへの投稿とその返信の例である。



図 8 フォーラムへの投稿とその返信

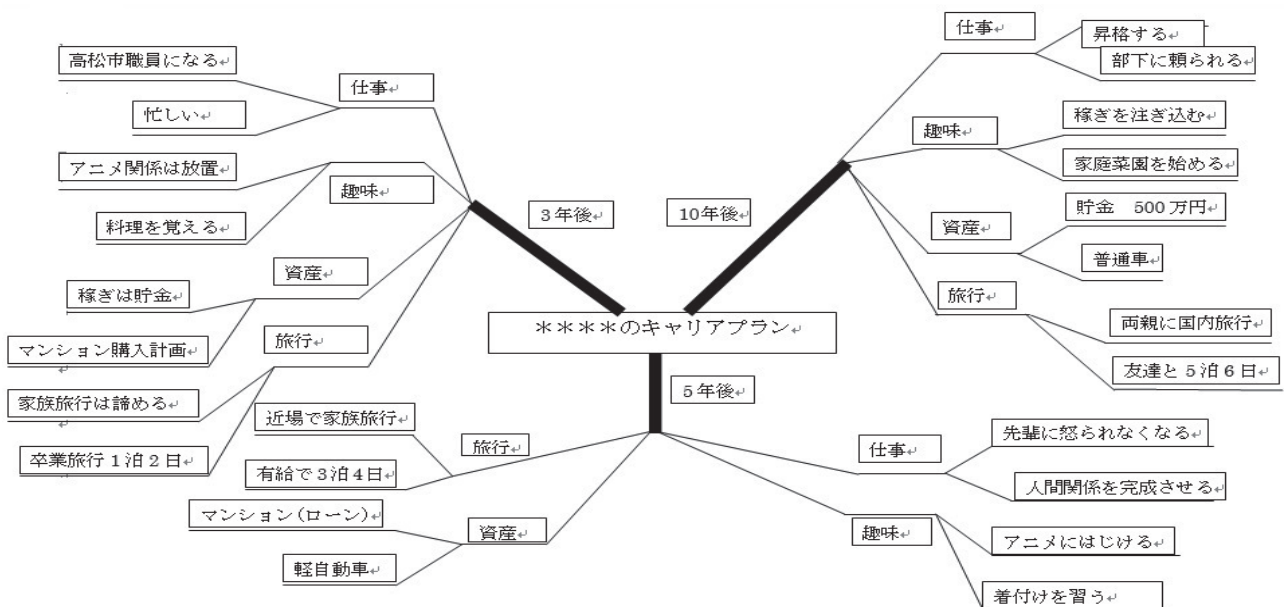


図 7 キャリアプランのマインドマップ

まず、関連する 5 つの単語を思い浮かべて、それに対する独自の定義をフォーラムに投稿するようお願いした。単語が決まらず困っている受講生には、日常生活の中で関心を持っていることや最近の経験を思い描いてみるように指導した。オリジナルな定義が思い付かず悩んでいる受講生には、気負わずに自分の経験を交えることを意識するように指示した。また、早くできあがった受講生には自分以外の投稿に返信するように呼びかけた。全員が投稿できたことを確認した後、数名に自分の作品を紹介してもらい、それに関して議論した。

最近は発表や議論を苦手とする学生が増えているので、授業として成立するかを心配していた。しかし今回の演習では、投稿記事やそれへの返信を縦覧することが笑顔や自主的な発言を誘発した。すなわち、フォーラムはオープンで和やかな学習空間を創り出す一助になると考える。また少人数ではあるが、授業外で返信してくれた熱心な学生がいた。演習の内容を工夫すれば、フォーラムは

授業外学習を促進するための有効な手段になるかもしれない。

4. 学習活動の分析

4.1. Moodle サイトの活用状況

Moodle には、操作内容を記録するアクセスログ機能が装備されている。この記録データをもとに Moodle サイトの活用状況を分析した。担当した 2 科目について、2013 年 4 月 5 日から 6 月 26 日の間に記録された主な操作内容とその件数を表 3 に、その間の操作件数の推移を図 9 と図 10 に示す。

表 3 主な操作内容とその件数

主な操作内容	件数	
	情報コミC	教育方法・技術論
コースの表示	2883	927
教材の表示	622	106
フォーラムへの投稿	195	10
フォーラムに投稿された記事の表示	3412	116
課題内容や提出状況の表示	1778	549
課題の提出	349	69

※情報コミC:情報コミュニケーションCa_Cb

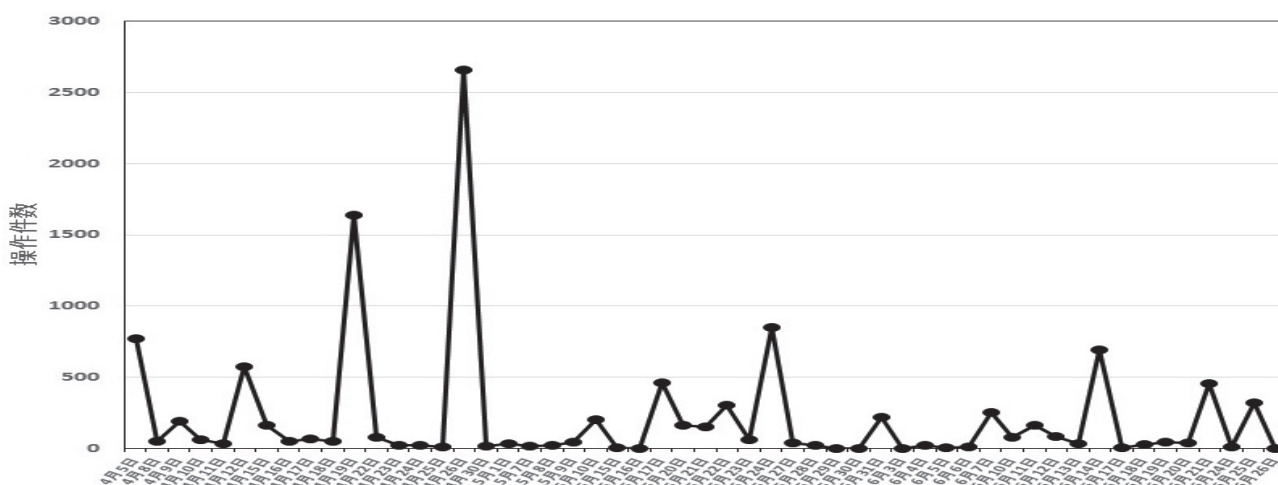


図 9 操作件数の推移 (情報コミュニケーション Ca_Cb)

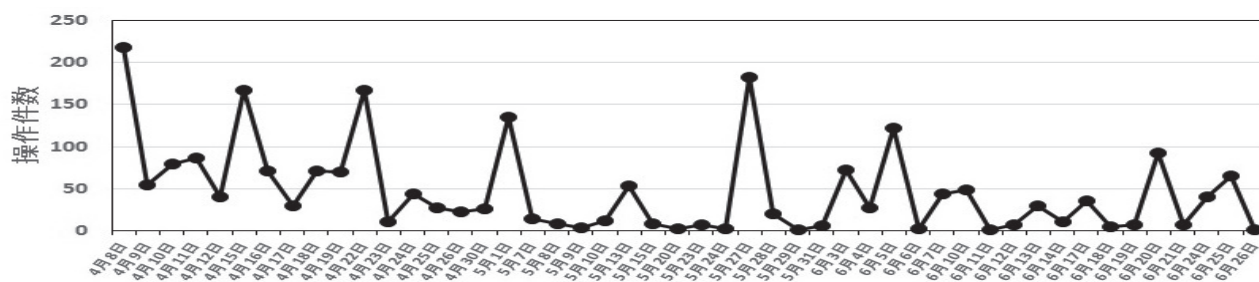


図 10 操作件数の推移 (教育方法・技術論)

「情報コミ C (情報コミュニケーション Ca_Cb)」では、「フォーラムに投稿された記事の表示」の件数が 3412 件と目立って多い。また、操作件数の推移 (図 9) を見ると、フォーラムを活用してディスカッションを行なった日 (4 月 19 日, 26 日) の件数が際立っている。これらの結果は、3.3 節で示したディスカッションでフォーラムへの投稿を意欲的に参照できたことを示唆している。ただ、「フォーラムへの投稿」の件数が 195 件と少ないことから、フォーラム上での意見のやり取りは活発ではなかったことが分かる。その理由としては、コンピュータを使って投稿することへの不慣れや自分の創作物や考えが記録されることへの抵抗感を挙げることができる。また、「課題内容や提出状況の表示」も 1778 件と多いことから、課題への評価を気にしたり、自分自身の努力の跡を確認して意欲を高めたりしている学生の姿を想像することができる。操作件数の推移 (図 9) を見ると、折れ線が突出している箇所 (月日) を確認できる。それが授業日に対応する。押しなべて、授業日以外の操作件数は目立たない。ただ、5 月 22 日や 6 月 25 日のように授業日以外でも操作件数が多い事例が見受けられるのは、その日が課題の提出期限に対応しているからであろう。理由とはとにかく、学生が授業外に自分の頭で考えたりコンピュータを操作したりしていることには意味があると考えられる。

「教育方法・技術論」の受講者数は 14 名であった。そのため、54 名が受講した「情報コミ C (情報コミュニケーション Ca_Cb)」と比較して操作件数は少なかった (表 3)。また、自分の考えを分かりやすくまとめる課題を重視したため、「フォーラムに投稿された記事の表示」より「課題内容や提出状況の表示」が顕著に多いことが分かる。図 10 についても、折れ線が突出している箇所 (月日) が授業日に対応する。また、授業日以前に操作件数が多い箇所が見受けられるが、課題を作成したり提出したりするために Moodle サイトを活用していると推測する。

4.2 Moodle サイトに対する学生の印象

Moodle には、オンラインでアンケートを採取す

る機能が装備されている。あらかじめ質問と回答の項目を決めておき、Moodle の指示に従って必要な内容を入力すれば、見栄えのするアンケートを作成できる。また、その回答データは Excel ファイル形式で保存することができるので、結果を分析する際に重宝する。この機能を活用して図 11 に示すアンケートフォームを作成して、最終回の授業に出席した受講生にお願いしてオンラインで回答してもらった。「情報コミュニケーション Ca_Cb」では、受講生 54 名のうち、30 名がアンケートに協力してくれた。また「教育方法・技術論」では、受講生 14 名のうち、10 名がアンケートに答えてくれた。以下では、アンケート結果をもとに「Moodle サイトに対する学生の印象」を分析する。

図 11 に示した 9 番目までの質問に対する回答結果を図 12 に示す。レーダーチャートの軸タイトル (Q1~Q9) は、合わせて示した質問項目に対応する。各質問の回答の平均値を対応する軸上にプロットし、それらを太線で結んでいる。この図から、Q1「授業に積極的に参加したか」に対する回答の平均値は両科目とも 4 (どちらかといえばそう思う) を超えていることが分かる。2011 年度前期に実施した授業評価では、「この授業に集中し理解しようと思えましたか」という質問に対する回答の平均値は両科目ともに 4.3 であった。コンピュータ操作が苦手な受講生は少なくないが、Moodle サイトの導入により彼らの学習意欲を削ぐことを心配する必要はないようである。

つぎに、Q2「授業外でも本サイトを活用したか」と Q3「予習や復習で本サイトを活用したか」に対する回答の平均値は、3 (どちらとも言えない) であった。標準偏差を参照すると、Q2 については回答のばらつきが大きいことが分かる。また、その回答別の度数分布を確認すると、受講生の 4 割ほどが 4 以上を選択している。これらの受講生の中には、4.1 節で述べたように、課題を期限内にアップロードするために授業外で Moodle サイトを利用した人も含まれるであろう。また、2011 年度前期に実施した授業評価では、「予習復習を十分に行なったか」という質問に対する回答の平均値は両科目ともに 3.4 であった。したがって、Moodle サ

イトを活用した今回の授業では、予習や復習を促進できなかったと判断できる。この状況を変えるためには、さらなる工夫が必要であろう。たとえば、事前に教材を読んで疑問に思ったことをフォーラムに投稿し、その投稿に学生同士でコメントし合うことを課すと良いかもしれない。

学習支援Moodleサイトに関するアンケート

皆さんのご意見をもとに学習支援Moodleサイトを改善していきたいと考えています。「質問に回答する」をクリックして、該当する回答項目を選択してください。
なお、回答項目の数値は以下の内容と対応します。

1 : 全くそう思わない
2 : どちらかといえばそう思わない
3 : どちらとも言えない
4 : どちらかといえばそう思う
5 : 非常にそう思う

モード: 匿名

この授業に積極的に参加しましたか。

未選択 1 2 3 4 5

授業外でも本サイトを活用しましたか。

未選択 1 2 3 4 5

予習や復習で本サイトを活用しましたか。

未選択 1 2 3 4 5

本サイトに登録されている教材を参考にして学習できましたか。

未選択 1 2 3 4 5

本サイトに登録されている教材をストレスなくダウンロードできましたか。

未選択 1 2 3 4 5

あなたが作成した課題をストレスなくアップロードできましたか。

未選択 1 2 3 4 5

課題の評定やフィードバックは学習の参考になりましたか。

未選択 1 2 3 4 5

フォーラムを活用して質問や情報交換ができましたか。

未選択 1 2 3 4 5

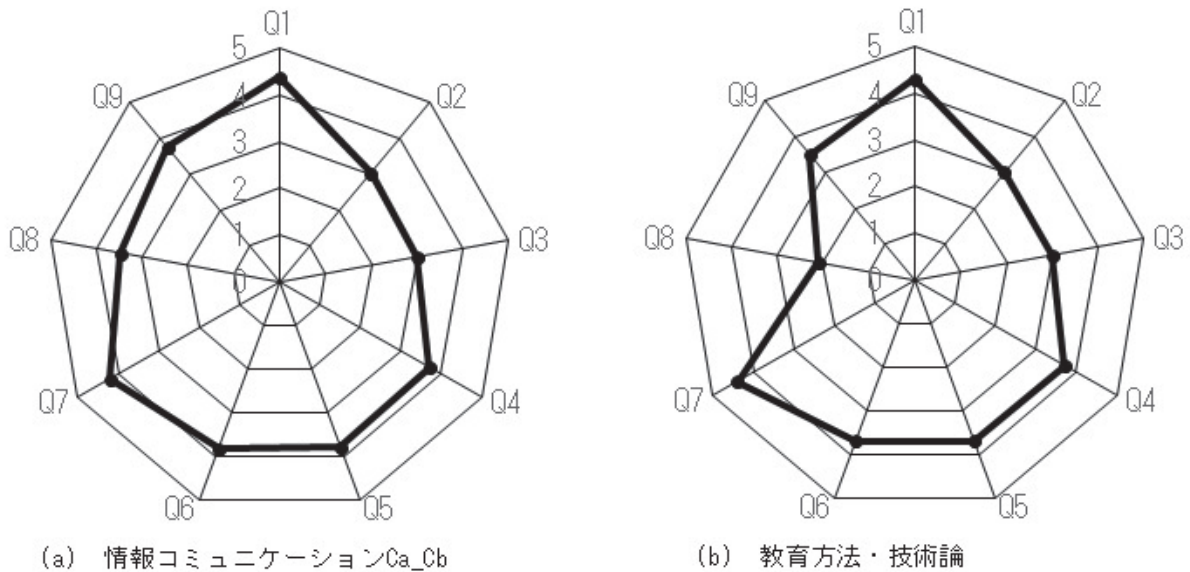
本サイトに登録された教材や活動によって刺激を受けましたか。

未選択 1 2 3 4 5

要望や感想などを以下に入力してください。

[あなたの回答を送信する](#)

図 11 Moodle サイト上に作成したアンケートフォーム



記号	質問内容	情報コミュニケーションCa_Cb		教育方法・技術論	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
Q1	この授業に積極的に参加したか。	4.4	0.9	4.3	0.7
Q2	授業外でも本サイトを活用したか。	3.0	1.3	3.0	1.4
Q3	予習や復習で本サイトを活用したか。	3.0	1.2	3.0	0.9
Q4	本サイトの教材を参考に学習できたか。	3.7	1.2	3.7	0.7
Q5	本サイトの教材をストレスなくダウンロードできたか。	3.8	1.4	3.7	1.2
Q6	作成した課題をストレスなくアップロードできたか。	3.8	1.4	3.7	1.3
Q7	課題の評定やフィードバックは学習の参考になったか。	4.2	1.1	4.4	1.0
Q8	フォーラムを活用して質問や情報交換ができたか。	3.5	0.9	2.1	0.7
Q9	本サイトの教材や活動によって刺激を受けたか。	3.8	1.1	3.5	1.2

図 12 アンケート集計結果

- (a) 情報コミュニケーションCa_Cb
- 初めて今回のようなレポート提出形態を体験したので物珍しかった。
 - サイトは使い易くてよかった。
 - 課題のアップロードは、メールでやり取りするよりもずっと楽だった。
 - 自分の人生や考え方の見直しができる。
 - 文の構成の仕方がよく分かった (2件)。
 - これからの勉強や仕事で活用していきたい。
 - 今後パソコンで文章を作成する時には、今回学習した事を参考にしたい。
 - 学外からも利用できるようなになれば、もっとスムーズに学習ができる (2件)。
 - サイトを利用できる時間がもう少し長ければいい。
- (b) 教育方法・技術論
- 課題の提出状況が確認できるので重宝した。
 - Gメールよりも課題の提出がしやすかった。
 - 自分に何が足りなかったか、どの様に説明をしたら分かりやすいのかなどが分かった。
 - (未来の教師として) 学習したことをもとに自分に合った授業スタイルを考えてみたい。
 - 学外から利用できれば、さらに便利になる (2件)。

図 13 Moodle サイトへの要望やそれを使った感想

Q4「本サイトに登録されている教材を参考に学習できたか」に対する回答の平均値は、いずれの教科も 3.7 であった。回答別の度数分布を確

認すると、Q4 については受講生の 7 割近くが 4 以上を選択している。また、Q9「本サイトに登録された教材や活動によって刺激を受けたか」に対

しても、3.5 以上の評価を得ている。したがって、教材に対する合格点はもらえたと考える。また、Q5 と Q6 についても同様な結果であり、大半の学生は教材のダウンロードや課題のアップロードをスムーズに行なえたと推測する。図 13 に示す自由記述「メールでやり取りするよりずっと楽だった」が、その裏付けであろう。さらに、自由記述「課題の提出状況が確認できるので重宝した」からは、Moodle サイトの機能に好印象を持っていることが分かる。ただ、標準偏差を参照すると回答のばらつきは大きい。今後は、授業中の机間指導の頻度を高め、学生個々の状況に応じた学習支援を行なっていく必要がある。

Q7「課題の評定やフィードバックは学習の参考になったか」に対する回答の平均値は、「情報コミュニケーション Ca_Cb」では 4.2、「教育方法・技術論」では 4.4 であった。特に、「教育方法・技術論」では課題に重点を置いたため、その評定やフィードバックが学生を発奮させる原動力になったようである。たとえば、調査結果のみをまとめたレポートに対して、「調査結果に対する自分の考えを含めよう」とフィードバックするだけでも、それ以降の内容が格段に改善された。学生は、課題を提出することによってではなく、それに対する先生からのコメントをもらうことによって成長するのかもしれない。今後も Moodle サイトを活用した授業を進めつつ、学生の自主的な成長を引き出すことができるフィードバックの返し方について検討していきたい。

Q8「フォーラムを活用して質問や情報交換ができたか」に対する回答の平均値は、「情報コミュニケーション Ca_Cb」では 3.5、「教育方法・技術論」では 2.1 であった。「情報コミュニケーション Ca_Cb」では、フォーラムを活用したディスカッションを行なったために、「教育方法・技術論」よりも平均値が高かったのであろう。そのディスカッションでは、フォーラムへの投稿を意欲的に参照でき、それをもとに自分の考えを述べることでできていたと思う。今後は、フォーラムへの自主的な投稿を促進する必要がある。たとえば、Q3 の回答結果の分析で述べたように、フォーラムを活用する課題を与えて徐々に慣れてもらうのも、

一つの方法であろう。

最後に、図 13 で指摘されている「学外からのアクセス」や「利用時間の延長」は、準備段階から気になっていた事項である。前者については、セキュリティ面が心配である。受講生の氏名や課題の評価などの重要な情報がサーバー上に登録されるので、今後とも学内のみで使用するのが無難であろう。後者については、改善の余地がある。今回は、一昔前のノートパソコンを活用したため、稼働時間を 9:00 から 18:00 に限っていた。現在、常時稼働できるデスクトップパソコンに Moodle サイトを構築し直している。

5. おわりに

学習支援 Moodle サイトを構築し、それを活用した授業を実施した。その結果、学生は課題をアップロードしたり、その評価を確認したりできる Moodle の機能に好印象を持っていることが分かった。また、フォーラムへの投稿を積極的に参照しつつディスカッションを行なうことにより、学生同士のやりとりを活性化することができた。一方で、本 Moodle サイトを予習や復習で活用してもらうためには、さらなる工夫が必要であることを認識した。

Bishop Mandell Creighton (British historian, 1843-1901)は、"The one real object of education is to have a man in the condition of continually asking questions."という名言を残している。このような教育を実現する一つの方法として、抵抗なく質問できる環境を提供し、それを積極的に活用する雰囲気を作ることが挙げられる。その際に Moodle の機能は大いに役立つと、今回の授業実践を通して実感している。また、学生に自主学習の習慣を付けてもらうことも重要である。そのためには、担当する授業コースだけでなく、自主学習コースも開設する必要がある。その手始めとして、「新聞投稿文の作成 (生田¹¹⁾)」や「英字新聞の電子版を活用した語彙学習 (生田¹²⁾)」という自主学習コースを Moodle サイトに登録する予定である。

学生達は端倪すべからざる能力を持っている。それを引き出すための一助となることを目標に、今後も工夫を凝らしていきたい。

参考文献

- 1) 中央教育審議会, 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm, 2012.8.28 (参照日 : 2013.2.14)
- 2) 鈴木克明: 大学における教育方法の改善・開発, 日本教育工学会論文誌, 36(3), pp.171-179, 2012
- 3) Miyazoe, T. and Anderson T. : Discuss, reflect, and collaborate: A qualitative analysis of forum, blog, and wiki use in an EFL blended learning course, *Social and Behavioral Sciences* 34, pp.146-152, 2012
- 4) Rice, W., 2011, *Moodle 2.0 E-Learning Course Development*, Birmingham, Packt Publishing
- 5) インフォレスト : Ubuntu10.10 完全ガイド, インフォレスト, 東京, 2010
- 6) karakaram.com, VirtualBox の Ubuntu12.04 に Apache, PHP, MySQL をインストール,
<http://www.karakaram.com/virtualbox-ubuntu1204-lamp> (参照日 : 2012.10.3)
- 7) てもぐ, ServersMan@VPS Moodle 2.0.2+ のインストール,
<http://temog.info/archives/vps/serversmanvps-moodle-2-0-2.html> (参照日 : 2012.10.4)
- 8) 宮添輝美ほか : Moodle の活用法—語学の授業に生かす—, 海文堂出版, 東京, 2011
- 9) 生田和重・石岡恒憲 : 文科系学生が作成した投稿文の統計的な分析, 日本教育工学会論文誌, 29(1), pp.35-42, 2005
- 10) 片岡俊行 : マインドマップ練習帳, 秀和システム, 東京, 2007
- 11) 生田和重 : 新聞投稿文の作成を支援するシステムの提案, 徳島文理大学研究紀要, 第 83 号, pp.19-24, 2012
- 12) 生田和重 : 英字新聞の電子版を活用した語彙学習, 徳島文理大学研究紀要, 第 85 号, pp.1-10, 2013